HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	社会学特講
Author(s)	鈴木，栄太郎
Description	昭和四十年度　修士課程 鈴木教授
Issue Date	1965
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77362
Type	manuscript
File Information	N037_01S40.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

NOTE BOOK

Manufactured with best ruled foolscap

社會學特講
昭和四十年度

VOL.

修士課程

鈴木教授

OX
30

小田急

現在における日本における社会現象の
研究には、それがどんな方向に関するかお
も政治の急激な変化に与えられして
理解するのは出来ない。
国の外部に対する態度は国民体質の
変化は先ず多に先っておくすべきである、

私は法学界の全部に役に立つ講義をしたい
と思っている。その意味で都市化は近
代化に外ならぬことを述べて見たい。

人もその社会も成長して、ある発展の過
程と云ふことを忘れてはならぬ。動的な理
解が社会学的研究には第一に必要であ
ることを忘れてはならぬ。十年前の自分と今
の自分は同一なところもあるし異った
ところもある。東京も日本もそうである。
固定した存在として取扱ってはならぬ
ということである。

AとBの関係は一年毎に異っている。人に
ついても国や都市や村落や家についてそ
20
うである。

社会学では関係の形式と云い、社会の構

現代日本の急激なる社会変化の都市化としての理解

一、都市化の二類型

村落の都市化と都市の都市化

村落の二類

前近代的村落と近代村落、

前近代社会より近代社会へ

血縁、村落より落地縁村社会

成員交替の原理の二種

日本の自然村と直系家族

近代化の内容

個人主義化、自由主義化、

合理主義化、契約主義化、

民主主義化

造とをよか、形式も構造も変化しつゝある。実体だと云ふ事を忘れてはならぬ。私は今日本の口民社会について研究しているが、日本の口民社会は私の眼には様々の交流現象の動いている成員の過程と写つている。巨視的に見れば二千年も昔から様々の時代を経て私達が辿つた変遷の過程として又微視的に見れば国境内の各地にひしめいている人や物や心の流動の様々の速さや方向をもった社会的交流現象の巨大な総合体として解されている。上から下への流車の様に口民生活における流動現象も大体は東京に向って集る口から上りか下りの流動として動いているかが分る。そんな流動現象の分岐点毎に大小の都市が存している。

社会の形式も古い社会構造も古い或る時或る~~場~~ところで存しているのではあるがやがては変化する運命にあるものである。社会は動いている生きたものと云ふ理解の仕方が如何に重要であ、

前近代社会の特性

集団主義、伝統主義 支配者本位

愛情主義、親分中心

集団における前近代的と近代的

直系家族と夫婦家族

自然村と自治体

君主制口家と民主制口家

古代的王制、

封建的領主制と立憲的統治者選挙制

代表者の投票選出、

代表者の任期制

集団行動の決定における多数決

義務と権利と栄誉の体制

るかは、今の私共の身辺における
世のうつり移りの激しさを見れば直ぐ
にうなづけることである。
嘗て日本においては、二十年も昔までは
一枚の田圃の形も、その畔道も数百
年も変ることがなかった
その村に生れたものは皆その村で一生を過
し、年に二三度四五里先の田舎町
に用たしに出ていった以外は村を出歩
くことはなかった。
村に来るものは行商人かたまに来る
位である。
それが今では家の直ぐ近くに立派
な道路が電車の駅までバスが絶え
出来て、にも店や工場があふれ
ず往来している。ターミナルの駅から
は二時間も汽車に乗ればデパートや大きな
名所/旧跡もあるし世界都市がある。村の者は
就職や買物やサービス等に毎日の様
にそんなところに通っている。
人と人の関係も国家と国家の関係も
絶えず変化しつつある。日本の国際的

前近代社会の残影の尚ほ残っている
日本における都市化には二類が厳
存している。アメリカなどと同日に論じ
がたい理由はここにある。二類の一つは
（前近代的）村落の都市化と（近代的村落及び）都市の都市
化である。

国家の枠の解除は都市の都市化に
自然村の枠の解除は~~自~~村落の都市化
に関係するところが多い。

各国は去年と今年では大きく変化している。東西の二大勢力の対立の関係が去年のまゝではない。日本の立場はそれによって異って来ている。

日本の社会学者が西向きと東向きの二大派閥に分かれていたのか、我々日本人かわらず、日本の[illegible]の位置の自主的な立場において出発する[illegible]の[illegible]もあり、日本人の研究の成果は今迄より一段と成長することを思う。今日の健闘を祈る。

現時の日本の急激な社会変化は国家の枠をはっして経済の国際的交流、文化団体の国際的交流個人の世界旅行を自由としたため、一時に世界の波が国内におし寄せたためである。何もかも世界的広場でその力や価値が物を云うに至ったのである。

国家の枠がこんなに取りはずされては正に有史以来の事である。急激な社会変化と云わねばなる所以である。

国家の場合と同様に国内の古くからの自然村の枠が近年中に消さくには、つされた事も見逃してはならぬ。昭和三十年頃に始まった町村合併にともない、新町村内の交通路の急激な整備と中央産業の地方進出に伴い各種機関の設置と末端都市の急増は国民の休眠的労働力を一挙に活用し国民生活の急激な向上を結果した。全国民が皆都市生活に参加するに至ったので、

ある。

然し日本にはまだ都市化の恵沢へ浴し得ぬ辺陬の地方もある。日本では、都市化は二類について考へなければならぬ。

木曜日 12時 医科歯科大学

第一回（四〇、五、二一、1―3）

「国民知性会の国際会議議員としての社会学者。国際会議場としての社会学教室」

一般国民は自己の生活の自己中心の印象的理解で断片的で、而もそれを正しく素把すよすに不慣れである。そんな国民同志の接觸は対立抗争あるのみである」。

社会学者が意味自己の国民の生活の組織社会学的に処理し科学的に再把握した

や未開を即ち組織的に社会学的に~~探~~究明し理解した結果を基よって相互の理解を進めるなり。~~無~~不必要な誤解や対立や敵意を正処し嚴格な科学の知性

の~~[illegible]~~広場において一掃し、我々の政府

と善意を深め、国際的な平和と共力を進め

ることに当然に向かってあろう。

そのおりは何よりも社会学は自ら

が国民の生活を充分に調査研究

することが必要である。この意味で社会

学会の実践的研究は現在より自己

の足下の社会研究が期待される最も実り豊か

な研究であるが、諸外国の研究が

それ丈に終るのではなく、他国民社

会の文化~~[illegible]~~の歴史的時点におけるル

のに[illegible]場合があるのは当然であ

心得る

◎国民記号は意味や價値基準の共同の記号。外部人には到達理解不可能の記号。
体驗共同者のみ正しく知り得る記号。然し他に知られ得ず不利も広い。
◎又人間生活の内には他の国民には理解され難い微妙な感情的のものもあるが容易に知り得る方面も少くない。○他の東国民に関する研究や他の時代に関する研究も困難で不可領域も少くない。

なか。その場合も、記号学上の思考の起点は現在の足下の記号にある可きもので、それがどの程度に組織的か否かについては様々であるとおよより仕方はない。◎日本人は日本語を理解する為には日本人の心を具備している。日本人の記号学的理解は日本語によって成長しなければならぬ方向もある。日本語で日本人の心で理解の出来ぬ記号学的理解はそれは日本人の記号学には縁のないもので[illegible]ある。日本人の記号学は日本人の生活の成長を正しく理解する

組織的理解

ものて、又それ等を通じて世界の永久平和に貢献するものである。世界全人民族に共通の原理の確立によって世~~界~~界平和論学ル貢献するよう~~な~~も考えられるが、その時も日本における実践性がその中心的な重要性をもつ事は当然である。

要は他から知りがたい部分も相当あるが大部分は知り得るのである。然し他から知りがたい部分に誤解や敵対の原因になるものがあるが、これは我々学~~芸~~者の正しい理解と表現によって相互の正しい理解に導くことが出来る。又

の役を果すのが、実践的法学であ
ると云いうる。

私の希望では

諸君の社会学的判断力を増大するに役立つ講義や指導をしたい。社会的知識の量を増し、ペダンティックな飾りとしての社会学を講義したくはない。社会学的思考力を少しでも多く強化してあげたい。

その為に諸君と共に勉強する心構へである。それぞれ専の切りするのではなく一緒に学問道を歩いて行きたい。

その為には寧ろ私の方が多く学ばなければならぬ場合も多いと思ふ

学生が学問途上に於ける一日の長として誤った道に迷い込った場合には私の方が早く気がつくであろうし、諸学生の力をつける為のみであって丈一定の方針によって指導するのでなく諸君の研究につきそって行く指導の方式であるから、私は私が活用し得る社会学の上の分野の研究でも利用する。

教える人の専門に応じて学生が集まって其の指導をうける其ものではなく一人一人の学生の研究の進行に応じ

て教える人が必要とされ心の力を与へると云ふ方針を期待している。易経的んは云の（セツ）中のものと思ふが、この方針の主旨は分って貰いたい。と云ふ事は諸君はどの生までもその教へを受けたい人からは受ける要求をすればよい。余り講座の枠（ワク）に拘束されない様にとの注意である。

研究の成長に従って専攻の変化は仕方がない事を認める。

私の希望は私の様にあるか、勘定の

中で充分実現させ得ないものもあろう。勿論その中の大学院には色々のきまりがある。然し私の希望ではせめて大学院丈けは昔の私塾の様な理想の教育が期待される。今の日本の大学院は成長しつゝあるので、一つの大学院の夢として私塾の様な私の理想の大学院の型もあってよいではないか。

＃今の国民生活の変化の根由になっているものは何か。その一つは家族制度の変化、その二つは村落制度の変化。第一は直系家族より夫婦家族へ（近代社会）第二は常緑樹林型（前近代社会）の村落より落葉樹林型の村落へ。（日本では都市化も常緑樹林型より落葉樹林型への移行が見られた（文明組織の組成の変化。二つのものの移行）

~~参~~

農業国より工業国へ
前近代より近代社会へ
都市化の過程
資本主義化
常緑樹林より落葉樹林型――成立

第二回

法学の社会学的研究能力を強化するうえに役立つ講義をしたいのが念願である。私のもっている社会学的経験の全て（法学の能力強化の）を活用して役立たせたい。（今日本の村落、都市における住民の研究の成果のあるもの）（概して法学の関連に村落に関する問題について私の文化学的研究が役立つものがある）今の日本の社会は現時の急激な社会変化には法律も無関心では得ず法学者へから、一應社会変化の社会学的追及に取りあつかって見たい（基本的研究）と述べる。

国民生活の体質的変化の基礎をなしているものは何か。＃直系家族より夫婦家族へ。日本の直系家族は家長権家族で家督へ集中

家長権家族ではない。欧米人の中心概念。

一家心中型家族　家毎に神霊の
独立口。同族制の基調の為家の
独立性が軽視されてい。日本では
運命共同体、体験共同体は家で
あって、それ以上でもなくそれ以下でない
ない事の隠滞。家中心へヒューには
クラシし、島根の吉田村。
人生観、諸学観の基礎。我が宗教
個性は人生観がなくなったから。
日本人の勤勉性の生々、及はさー
もおそる。
年襲履図式では古遠系家族は

◎直系家族の時代には人は一生その生家を自分の家とすることが出来た。他家に嫁した婦人も、不幸にしてそこを去った場合には帰るべき家を一生持っていた。結婚した婦人も一生生家に安住することが出来た。失業した青年も帰るべき家をもっていた。資本主義の企業体が発達するにつれて、家を失った青年や女子は合宿・寮家に在る。青年男女をも職場に招き、アパートに生活の本拠をおかしめた。直系家族をこわしたのは直接資本主義社会機構。そこではアパートと職場が夫婦家族を成立せしめた。新しい資本主義社会の青年は職場とアパートにうつることによって直系家族を去ったが、職場を失えばもう行くところはないので、安い賃銀にも甘んじて職場にかじりついているのが今の状態。そこを見ぬいて出来る丈低賃銀を出さんとするのが企業家の方針である。

家族は変貌する。夫妻の入籍のみで家族は構成する。女子の地位の弱い点が失った。男女老若が共同生活、人生れるや祝福せられ、老いて死するや一家悲しみの中で。◎

人道の教えは老人と病人をその一団にかかえねばならぬ。夫婦家族は夫と妻の結合。[illegible]の[illegible]ち二人を離縁自由、現世主義の家族、アメリカの家族は世界史上に類例のない[illegible]。自由、個人、~~体~~合理の[illegible]の尊重。

今女性では日本の高令層が、低いぬけて高い。男性では~~日本~~ハンガリーがまだの高令層が高い。その社会的意味は何なのか

男性については~~邦~~ハンガリーの社会学者が女性については日本の社会学者がその社会学的説明を加えるであろうが嫁姑の関係に対する社会学的研究は甚だ貧弱な研究である。

は私は既につ序説して述べたように

この関係は両方倒れかけよ根本の高さから自から解決するよといいの

けれども、それが一つの範であるならば直系家族日本の女性はその地位を高めるがずに価値を奪う。三従の原則に従って忠実な男性のしもべとしてつかえる外はない。

中にやり勝やイスラエルの子の公共管理制、老病人の公共管理制に分け切るのに中にはよく考えている。日本もそんな様子のない改革をするには今より二十年すぎてから新制度に入るのが大きいと思う。

第三回

日本国民社会の現時における社会生活の変化の主軸になっている変化の第一は家族形態における変化ー直系家族より夫婦家族へーであって、これは国民社会における備質的な変化を意味するものである事を前回の講義で述べたが、第二の主軸的変化は地域生活共同体における社会変化である。これは国民の生活協力の形式における変化を意味する。封鎖的生活共同体より開放的生活共同体への変化を意味する。私の所謂自然村よりそれに対応する概念と

してあげられた行政村への変化である。自然村もかつて明治初期までは当時の行政村であったものである。嘗ての行政村の跟跡が自然村となっている。[illegible]曾ての国民社会のコンセキが民族となるのであろう。何時の時代にも暴力によって支持されていて政治力は人間社会における最後力の決定者である。社会の初期に何人かの学者が国家征服起源説を主張した。その後人間関係の心理学的分析が進められるにつれて巨視的な観察は遠ざけられたから、国家征服説の之の種の研究は閑

にされてったとか、政治における暴力は見落されてはいなかった。マルクス・マクスウェーバー

秋の所領自然村は太閤の検地以後（1960 1590）すべてに~~五~~四百年、百姓はその村から移住することも他の職業につくことも禁止されていたのである。百姓はその村に生まれその村で百姓をしてその村で死ぬことを強力な政治力のもとに宿命づけられていたのである。幕末まで年貢割当・税金はその村を単位として石高が定められたから、一人の労働力の移動は村中で問題であり、その組中では更に問題であった。百姓家族の百姓観

よりの専制によって統治者が益々兵力を増し中央の力を指揮して来たのは公地公民の制度が定められた大化の改新によっての日本統治の常道であったと思はれる。戸籍と隣保の制度と四面海の口。百姓より国家の財源を得んが為めには、百姓を村に留め、農業に従事せしめておくことが必要であった。国家の元業、百姓は植物の様に土地に定着せねばならなかった。

統治者は国民をその国土から出すまいとする。出せは税金と国力がそれ丈へるからである。

国境の線のきびしさは中国の周辺の日本米国乃至の他、台湾の態度。

国境の高さ。国境内の諸関係は完結社会を形成する。マキーバーのコミュニティーとアソシエーション。高田博士の全体社会。

自然村は成員更新の常緑樹型。年に同一成員。祭の参加者、五十年で全員更新。（毎年[illegible]少数）

近代国家の自治体は落葉樹型。

代表者の選挙、投票。期限。多数決による議員決定。

自然村では伝統的、集団的、感情的（身分主義）（個人主義）（合理主義）

自然村の都市化現象の進行は継続

直後から　林法制改史

明治三十年頃から産業革命

大正十年頃から農民組合

昭和七八年頃より都市工場の急増

戦後農地改革の影響

昭和三十年頃の町村合併

昭和三十四年頃より工業の急成長

急激な都市化

私の都市化理論（昭和十五年頃）

1. 都中村

2. 組合村

3. 農場村

今農村は農場村になりつゝある。

アメリカのカーバンコミュニティーの研究又
歴史

日本農村の急激な近代的変化は移住、通勤、
兼作、旅行、生活圏の急拡大より。

之により学んだもの個人意識自由意識
合理的意識の生活である。交際の生活の
代表の型、都市の協力、義理人情の
未決済の思想形成

第四回講義（六月八日）

は日本の敗戦時の急速な近代化の枢軸をなすものは封建的家族より夫婦家族への家族変化と自然村より近代国家の自治体への地域的協力組織の変化であるを述べ（大小字族ツ、家族の変化は何ら体系統だが）

地域的協力組織の変化については、この事に関連した理論を（私は私の学問史の関）農村の研究の次に都市

る。家の研究は村民社会の研究の内に考えて来た

の不

それ等の理論を根拠としてこの変化の枢軸的意義を認めている。

1、村落分類論 三類

2、（家族中心主義より職場中心主義への発展の理論）都市化政論の三項

3 成員変形型二類 — 前近代より近代へ

4 村政組織基盤関係

生活圏拡大の方向。隣境、村境、口境

民族、地方、地方色は皆行政圏のアト

成員変形の近代型に変ったのは自然村から自治体への変化丈でなく、この東京市の内でもテリトリーの旧型より新型は家職の仲間組織にもある。地域を[illegible]ば大工の体大土建会社。都市での近代化は大企業体の活動からである。

一、農村では地域共同体の解体から（成立）成員変形の契機の変化

一、都市では大企業体の活動から、資本主義経済の商品発展から

一、当別の洞穴の中の人

一、口尻島の物々交換

人間の地域共同の基地 不

地面占拠乱暴の共同期付に出来る近隣の（アジーラム）

漸次的拡大、隣人、村落、口家

茂地 長良川上流の村の中

一、境界を拡大するのは政治の成長

大化改新も公地公民の決定から、何時の世の政治も

百姓を本業かもよ

今問題にされている村落共同体論（福武君）
米日の
村落共同体論と米日農村社學界の
接近經過。（米日の農村社会など同調し
日本の農村社会学者が
得るのはむしろこれからの事ではないのか。

職場の中にも職場同志の間にも
新旧の対立

新時代の現性を導くもの
初生教育
組合運動
労働基準法
人権擁護委員会
各種の政党
裁判の公正
丹遊ぶ為の生産と生産の為の余暇
ブリキ物を出す自分ある少年と
伝統にこだわり旧習慣におつくする老人
生産の為の消費と消費の為の生産
マス・コミの力は一般に新時代的、

休眠前最終回（六、一五、）

主旨
全国的には直系家族より夫婦家族へ
地域社会の自然村より行政体へ

都市では
職場の階層構成か、
階層の服従関係や不協和
親子夫婦の反映
階層間の感情的格差直対立
下層は組合体系に於て備えその
上は一致する事の少い幹部層
上と下では政党の見方も階層間
党の見方つまり対立し、いま下は党
の綱領を指導しないられる。
新旧の思想感情の対立が見
られる。
下の世代が上の世代を批判して、
る時代、小学生中学生の理論は民主
的合理的、
新時代を作るものは芸術、
舞踊、ドラマ、詩、映画、舞踊、演劇等、
について行けない老人組
マス・コミの乱立
新時代産業によるバック。広告
宣伝における新人。

自然科学も道徳も宗教もアメ
階層序列の原理と統一体家
族や自然への忠誠の感情・伝統
村落の感情がすでに自由平
等、個人の尊重、人間愛、の理
想が若い世代に成長しつゝある、合理
レジャーの発生、消費生活の
の革命は都市の新興農
村から。

貫ぬくものは~~ぬ~~夫婦　子夫婦の
二つの世界の対立
伝統と先覚者と若い世代を
統一す、新時代の合理性の
成長、人を平等自由、合理

自然と人生と宗教の味わい方
おける民族的個性は別。

青年期について種々の足下の社会生活の変化と発達の側面について述べる。未来の発達は今嘗てない大変革大転期の渦中にある。この変革の方向は色々の特性をもっているが、見通しがたい。その一つは人が皆万人が万人を敵とする社会になりつつ、あることである。父は子を信ぜず、子は父を信ぜず夫は妻を信ぜず妻は夫を信ぜず、友人は互の性の不信を速め、逆に集団的になって一人一人には孤独を感じ、信じ得るのは自己丈であると思ふ完全孤独の社会になりつつあるのである。

青年期

上下の対立の社会より横の分裂の社会へ。

階層階級の上下の対立、世代の対立、（傳統のない新な村落の他地域社会）

横の対立は同僚、友人の対立

信じ得るは自分のみ。

グループ中心の現代のグループの中の孤独。電車の中の孤独。

万人は万人の敵の社会。

各別の家の中の人にはその日本人も敵。

万人の敵の社会の孤独に人は耐えなければならぬか。

この孤独の中の忠実な二人の協力

三人の団結十人の団結は天下をとるか。

出来る団体武道。

ホッブスのレハイアサンの考へでは万人が万人の敵の社会では、平和を望む人の自然に答へるには強力な巨人的力をもつ怪物を造る。一人が震へあがる社会的構成物の畏服力によって一人一人を屈服せしめるものを作り上げる事が必要である。それには万人が自分のもつ武器をなげ出して互ひに誓約して作る社会契約によって作り出す事が出来る。それが国家である。国家は人が作ったものであるが、出来た国家は個人をその思ひのままに支配する。そして平和を維持生活を保障する事が出来る。

然し今日では国家はあまりに人を支配する
レ゛ハイアサン体の活動がなすのであるが、にも拘
らず万人が人り疑とする様になりつゝあ
る。レ゛ハイアサンの活動が夢中になったのか、人間
がづるかしこくなったのか、レ゛ハイアサンの面前で、
人は万人を敵とする様になりつゝある。
人間生活の内容方面が多岐となり、実際
法の不備が破れているところもあるであ
らうが、縦に横に人間関係の細分が
文明の上昇と共に遠慮なく近寄るところに根本の
理由が存するのであらう。故文化は合
理化の過程で攻食るかゝつてある。
然し、愛情

生産に関しては合理
その他の生活に関しては愛情、愛憎が
必要でないのか

法律は人間生活の合理化に進む
然し合理法と非合法は合理化の成法と
して生産生活に適用するのは無理でな
いか、その他の生活も合法と非合法によって
のみ律するのは無理である。
法律は經濟に関してのみ適用さるべきもの
その他の人間生活は愛情によって理解さるべ
きものである。

を無視するか文化の上昇には必要で
あると云ふすれば問題が残るであろう。
生産に関しては合理、その他の生活
に関しては愛情が文化（の高度如何に関せず）と共に存續
するのではないのか。續
（都市におけるインフォーマルグループ、農村におけ
る講とユイ）

ゾヤマ

女山ー洞（ほら）山（い）がある。ミカゲ石ーコーゴ石

ーこの山の中に村長の家がある

山の中に池があって、ヒミコが水鏡したといはれる

大塚ーが女山のお屋敷の中にある。

王

清水（きよみづ）寺ーも女山の中にある。

ヤマト（山門（やまと））ー郡名

山門郡東山村の女山